

上田女子短期大学第31回記念児童文化研究大会報告

日 時：平成20年7月19日(土) 午後2時～4時
会 場：上田女子短期大学 北野講堂
講 演：「ドキドキ」と「ハラハラ」はどう違うか
講 師：高畑 勲さん（アニメーション映画監督）

講師紹介

1935年、三重県に生まれ、岡山県で育つ。
東京大学文学部仏文科卒。日本大学芸術学部映画学科非常勤講師。

[主な監督作品・著書等]

劇場用長編

『太陽の王子ホルスの大冒険』（1968）、『ジャリン子チエ』（1981）

『ゼロ弾きのゴーシュ』（1982）、『火垂るの墓』（1988）

『おもひでぽろぽろ』（1991）、『平成狸合戦ぽんぽこ』（1994）

『ホーホケキョ・となりの山田くん』（1999）

文化記録映画

『柳川堀割物語』（1987）

中編

『パンダコパンダ』、『パンダコパンダ 雨降りサーカスの巻』

テレビシリーズ

『アルプスの少女ハイジ』、『母をたずねて三千里』、『赤毛のアン』

プロデューサーとして

『風の谷のナウシカ』、『天空の城ラピュタ』

著書

『「話の話」解説』、『木を植えた男を読む(訳著)』、『十二世紀のアニメーション』、『映画を作りながら考えたこと』、『映画を作りながら考えたこと II』、『漫画映画の志』

訳書

プレヴェール著『ことばたち』『鳥への挨拶』、オスロ著『キリクと魔女』など

内容

平成20年度の児童文化研究大会は、「火垂るの墓」「おもひでぽろぽろ」「平成狸合戦ぽんぽこ」等の作品で有名な、アニメーション映画監督の高畑勲氏を招き、講演会「「ドキドキ」と「ハラハラ」はどう違うか」を開催した。

高畑氏は、単に主人公と一体化するだけの「ドキドキ」する作品ばかりが日本のアニメーションには非常に多いこと、本来は、観客が作品を一步突き放し客観視した状態で「ハラハラ」するような作品こそが必要なのではないか、と語られた。

国際的にもアニメーション映画の第一人者である高畑氏の、映像作品に対する真摯な思いと深い解釈が述べられ、あわせて諸外国、とりわけフランスのアニメーションの現状についても語られた。学外からの参加者も大変多く、参加者数は報道関係者も含め約200名であった。また、講演後のサイン会も盛況であった。